WASON
HQ
1104
J741

Aug. 1893
no. 351

明治廿六年八月十九日發兌

女學雜誌

第三百五十一號

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

本號目錄

社説
歸省中の女學生
女子夏季學校目前に在り
隨感
議論事業の基本は家庭に在り◎家内不平病を診察す◎可憐孃と士の氣節◎夏日朝夕の祈禱
雜錄
玉堂女訓(第一)
從順の道
理學
燐火(けい子)
論説
歐米女子高等教育の近況(津田梅子)
兒籃
犬つくをどり(しづ子)
家政
香水と石鹼
書架
貴女之心得○近松門左が女子の性格○ゼヲヂ、エワオト

前號目錄

隨感
文字書くの道○法師の孤悲○異質の人事業を異にす○永遠不斷の安慰○朝貌と伏戸の乙女
家政
茶菓子廢止の說(溪流女史)
雜錄
新聞の新聞(しづ子)
兒藍
アンセルモ物語
論説
教育の最要時機(増田たき子)
小説
春風裡(ーオストイ作、不知庵主人譯)
書架
年中總菜の仕方○美術の最上の天職○世界博覽會に於ける婦人○科學と女性○出張看病○婦人建築師
寄書
破鏡怨(佛山棄婦行の譯歌)
女報

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女子夏季學校廣告

一 開設主旨

夏季學校の効益多きとは近時毎歳の催しにて人の普く知れる所なり吾等は其ます〳〵盛んになり行んとを希かひ可成くは各地に分設せずして一つに合同し全國同志者の爲に唯一の大集會あらんとを願ふの心切なり。然るに今回殊に女子の爲に之を別設する所以のものは甚たく方今の女學に憂思する所のあれば也。且や尋常夏季學校に於ては講師を女性に求め其公の演説を聽かんと頗ぶる難く女生の傍聽者に於ては厭かぬ思の多ければとて京濱間基督教主義各女學校同盟會議して本年遂に此特別の設を爲すとはなりぬ。左れば此女子夏期學校の主旨とする所は尋常の目的の外に女流先輩又は殊に女學に身を托する方々の講話經驗を承はり尙且つ此時を好機として廣く女子教育者の懇談會を開き一般女學の爲に相計り相勵ます所あらんとを欲するにある也。然りと雖どもかの一般夏季學校の催しに妨げなからんとてわざと此期を八月三十一日よりとせり。願くは四方同一念の姊妹諸君、右發起の精神を酌み其目的を賛して期に先だち惠然數多に來會あらんとを。

二 講話

九月一日より七日迄每朝靈性上の道話あり。每夕女子教育及び文學藝術の事に關して講話あり。外に臨時の演説、會議、懇談、及び野遊などあり。

道話を約せられたる教師には、本田庸一、植村正久、井深梶之介、原田助、小方仙之介、ツルー夫人、デョー孃、等の外に押川方義、スペンサー孃、ラーヂ夫人、マヤー夫人、ピアソン夫人等も亦可成く來講あるべし。

講話を約せられたる講師には、(米國女子大學生修學の景況)津田梅子。(ホームの事)ブース氏。(女子教育の方法)櫻井ちか子。(我國女醫の由來及び前途)荻野吟子。(女子教育と武道)星野愼之輔氏。(海外にある我國婦女)安藤太郎氏等の外に高等女子師範學校の中川謙二郎氏、東京盲啞學校の小西信八氏、東京音樂學校の神津專三郎氏等も亦其專門教育に付て講演せらるべく其他尙ほ臨時の演説多くあるべし。

三 雜則

八月三十一日午後開校式を擧げ九月八日閉校す。生徒は女生のみとすれども之に附添の父母若くは女子教育に從事し又從事せる人の來會は此限にあらず。校堂及寄宿舍は横濱山手百七十八番館フェリス女學校内に於てす。校費十錢。臨時聽講費一日五錢。食料一日十錢。夜の具は別に賃借するとを得。校内に取締婦人あり一切の取扱及び監督を爲す。

東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社内
假事務所

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女子教育懇話會

女子夏季學校開設の好機に於て玆に女子敎育者の爲の懇話會を開く◎會場は同じくフェリス女學校内に於て九月八日朝八時より翌九日正午まで大率ね左の題目につきて懇話會談せんとす、

女生の躰操につきて◎方今女子高等專門敎育の必要如何及び其方法◎校內傳道の眞法如何◎家政科實脩の眞法如何◎女禮に方今女子敎育非運の原因及び振興の方法につきて◎女禮につきて◎基督敎主義各女學校連合の方法に付きて◎其他

右題目の外議案提出せられたき方は八月三十一日迄に女子夏季學校に宛て申越ありたし。

右會へ出席の諸君滯在費一日十錢◎寄宿は校內に設置可致候事。

女子夏季學校委員中

女子教育懇話會掛

女學雜誌

第三百五十一號

明治二十六年八月十九日發兌

社說

故鄉はげにいかなれば夢となる、
のちさへ尚ほもわすれざるらん。

○歸省中の女學生

むかし、主、十二の弟子を四方に送らんとして、諭し言ひ玉ふらく、われ、爾等を遣はすは、羊を狼の中に入るが如し、故に、蛇の如く智く鴿の如く馴良かれ、と。女學校の課業、休みを告げ、諸生四方の家路に歸らんとする時、教師、之を集めて之に戒しむるの情、蓋し亦た之に類するものありしなるべし。

女生諸君は、此の戒を謹聽し、確と之を念頭に懸け、鄉關に歸りて、目下、兄姊父母、故舊親戚の間に寄留し玉ふらん。

諸君が、今ま朝な夕なに讀む所ろの書籍の紙にて作られざるが如く、諸君が、今ま之に聞き之に質す所ろの教訓者の必らずしも學校教師にあらざるが如く、諸君が學力、器量、度胸、及び品行を吟味せんとする所ろの試驗は、決して點數にて測度さるる所ろのものにはあらず。諸君が家に隣りし幼時の友は、既に嫁し付きて女房となり母となり、諸君が小學校にて共に學びし男兒の友は、既に地方の有志者となり、諸君に句讀の教授を施こしたる師匠は、とく白髮弓腰の老先生となり、皆うはさして諸君が修學の結果何如にやあらんと、窺ひつゝあり、其掛念、其豫想は、宛がら赤兒の生るゝを待つの家人、新よめを迎ふる新郎の心根に劣るべしとも思はれず。皆な、實に心切の念ひに發するにてある也。

諸君は、實に大切なる試驗場の眞中に立てり、其優しき舊知己をして滿足せしむるか、はた之をして失望せしむる乎。左れど、之よりも尚ほ、思の切なるは、其の兄姊にてやあるべし、兄姊にも優りて一層苦慮に堪へがたきは、言ふ迄もなく、其父母にてあるべし。父母の君達は、諸君が、發達、成業何如にてあると掛念し、金粉を砂間に拾ひ、眞珠を海中に

さぐる人にも優りて、只管ら諸君が狀態に注目凝視せらるゝなるべし。諸君は、兩親のかゝる惠みある憂慮を安んじ玉ふことを得たるや、いかに。

此等くさ〴〵の數多の信切なる試驗は、單に試驗のみにて終るにはあらず。其の關はる所ろ、一層廣く、一段大ひなるものありて存す。即はち、諸君が鄕關に於ける評判のよしあし何如によりては、之より新に都に出でゝ學に就かんとする女生諸子の進路をば、或は開き、或は塞ぐ。「彼兒の發達如此し、人は學ばずんばある可らず」、とて、歸省中の女學生に感歎すること切りなれば、新たなる就學生は、續々として起ち、相伴はれて都に出づることとならん。左れど、不幸にして、評判宜しからず、「女學生とは、斯るものにや」と、爪彈きせられんには、切角指折りて都に出づべき歲月を待ち定められたるものすら、尙ほ、中止となるべし。況して、之より新に就學の事を計らんとするに於てをや。

左れば、此の夏後、女學の氣運を挽回し、之を一層伸張するか、はた依然として舊日の滯止のまゝにて在らしむるかは、目下歸省中の女學生諸君が言動如何んに關わること深し。故に、諸君が責任は、至つて重しと謂ふべし。

凡そ、短日月の間に於て、人の評判の種子となること尤とも多きは、卑近直接の些細なる行事にありとす。もし、年月長くんば、たとひ外面卑近の三四の欠點ありとも、中心に潜みたる長所あらば、之を見拔き之を賞美して彼を恕することもあるべし。然るに、僅々三四十日間の交はりに於ては、寧ろ之を望むべきに非ず。此間に於て、人をして滿足せしむるものは、先以て日常直接の最も少さき行事にありと言はざるを得ず。左れば、諸君は、望遠鏡にて天文を窺がひ、宗教論にて、未來永遠を考がふる如き、洪大無邊なる思慮は、暫らく之を控へ、先づ目前明白なる處置の上に於て、尤とも多く用心する所ろなかる可らず。夏休なりとて、放心するは不可なり。夏休は、學校の休課たるのみにて、萬事休息の趣意にはあらず。朝は例の如く早く起き、夜は諸人を休ませ、年中、家にあらずして家族を介抱せざりし遺憾を、唯此時の間に償はんことを心掛くべし。かくすれば、一つには、父母を喜こばせまつり、二つには、孝養を欠きたる殘念をはらひ、三つには、學校にては兎角不十分がちなる家政を實地に習ひ試むるなど、もろ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〳〵の大なる利益あるべし。

○女子夏季學校目前に在り

女子夏季學校、彌よ來る三十一日より開設せられんとす。之が爲めの準備少なからぬと共に、之に對する所望の聲も亦た所ろ〳〵に高しと聞く。此の事や、兎に角、女子敎育の進步に關係すると淺少にあらじ。

もとより第一回の事とて、發起者に於ては、左迄の大望あらずと承わる。之が爲めの寄附金を廣く公けに募集すとも見へざるは、此等の爲めか。然りと雖ども、目下滯ふり勝なる女學の景况を攪醒し、兎角分離がちなる同主義の各女學校を連結し、相合して前途の方策を運らすなど、此度を以て最上の好機會とす。左れば、發起者はもとより言ふに及ばず、苟しくも、女學に志あらんほどのもの、ことには身、婦人にして直接其同性者の利害に傾念せんほどのものは、何れも皆な此好機會を重んじ、率先して之に共同し盡力すべき筈とは思はる。

然るに、此の關係多き好機會を、空々漠々の間に過し、冷然として、其成行くまゝに放任し、宛がら痛痒を感ぜざるかの躰にもてなさんには、其報ひの來る所ろ何處ぞや。即はち他にあらず、女性自身、女子敎育それ自身の頭上に落下するの外なきなり。此時に於ては、女子夏季學校なるもの未だ初より生れざりしならば、幸ひならん。既に一と度び世に出でながら、之に同情を表するの婦人女生少なしと知れなば、彼等が熱心のほど、及び、女子敎育現狀のほども分明となりて、もはや言ひ逃る可らざる衰微の證跡を示すものとはならん。夫れ、熱心と不熱心とは、同情の有無淺深より來り、同情の淺深有無は、之に注意するとの、淡きと濃ゆきとによりて、分る。見よ、女子夏季學校の初陣目前にあり、其の勝敗盛衰の運は、婦女子諸君が手の中に存す。諸君は、そも〳〵之を如何にせんとする乎。

竭レ忠而精貫ニ白日一、
和レ衆必資ニ於寛簡一。

隨感

風かをる水際になれて夏は見ん、
うき葉の緑、花の白妙。

○議論事業の基本は家庭にある事

天地は、一つの大ひなる姿なり、人心は小さき一つの鏡なり。此鏡、彼の姿の所ろ〲をうつして、さま〲の形を現ず。形の相ひ異なる所以のものは、其全軆を映すものにあらざればなり。暗夜の星は、彼が黒きよそほひに穿ちたる白銀の留針の如し。月と、日とは、其かゝげたる燈明の如し。花の草木は、其飾りにして、山はそが器の箱たり、川は滴たる汗にして、雨は落す涙にやあらん。一天空はれて落陽千里の紅を染むるは、其が打笑める顔か。一碧万頃の波静やかにして下に呑舟の魚を泳がせ、上に万石の巨船を浮ぶる大海洋は、其が廣き度量なるべし。人は、皆な此等の風光を各箇に映して、或ひは之に感じ、或は之に論ろひ、或は之に歌ひ、或は之に理はりを附す。其見る所ろの互ひに異なり、其映ずる所ろの相ひ均しきことを得ざる所以のものは、すべて是れ其心鏡の大小方圓を同じふせざるが爲なり。此故に、哲學者の議論、千古つきず、万世かわる〲種々の論派を起すと云と雖ども、詮ずる所ろは、其人の性情氣質と云ふそが心鏡の結搆如何によりて立論する所を異にするものなる耳。豈に啻だ之のみならんや。外交を先にして朝鮮を伐てよと論ぜし西郷南洲が武斷的の英雄論も、内治を先にして外事を後にせよと論ぜし大久保甲東が宰相的の經綸策も、必竟はこれ其氣質の異なるによりて出で來りたる結果なる耳。左れば、哲學者が一生の持論を定めしむるも、政治家が實際の政策を定めしむるも、其根本は、其各自の性情にありて、而して此性情の相違は、大率ね、家庭に於る母の訓養如何によりて定まることを見る。母が隻手を動かす所ろ、片言を放つ所ろ、戸内にありて能く偉人豪傑の一生を支配し、引て滿天下の景勢を支配すと云ふ所以のもの、此に存す。われ、近ごろレェス氏が、哲學史傳(哲學の傳紀的歷史)を讀み、新たに此感をもやして、熱に思ふ所ろ熾

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

んなり。

○家内不平病を診察す

一家の美くしく治まりがたき時に於て、何人も皆な己が心に省み質すべき一つの問ひあり。曰く、「己れ與ふるよりも寧ろ需めつゝあらずや」と、これ也。良人は、其妻の爲に顧慮掛念するよりも、寧ろ己が爲めに樣々の事を要求しつゝあり、彼は獨り心の中に思へらく、われは斯く外に出でゝ日々奔走盡力するなり、家に歸りては、十分の慰さめを受け、十分のもてなしを受くべき權利ありと、此心を以て妻に要むるが故に、妻の爲す所ろ、一々滿足しがたし。然るに、妻には亦た同樣の所望あり、良人、外に出でゝ奔走し玉ふとも一つの事業なるべけれど、妾が家に居て、日々同じきとを繰反し、頑是なき子供に泣立られ、固意地の下女下男に我儘せられ、一年終歳何の變化も何の面白味もなく、働らきつゝくるとも、亦た一つの事業にて候はん、然れば、外界に出づると少なき妾が爲めに、折々は世の中の事を話し、切めては耳にのみなりとも、保養を得せしめ玉はんこそ、御情けなるべきになど、要むるの念あらんか。凡そ、如此く互ひに要むるときは、慾に際限ある可らず、要むるといよ〳〵多くして、不平を醸すといよ〳〵多し。此に於てか、家内つねに面白からず、談話減じ、緘默增し、情けかくれ、澁面顯われて、家の内追々に冷やかならんとす。其病元を察すれば、實に「要むるの念多きによる也」。もし互ひに勘辨し、細かに反省し、權利を主張するよりも、義務を念じ、只管ら家族の幸福を增さんとを思ふて、たゞ〳〵人に多く與へんとを希ふときは、家内の憂鬱たちまち散じ、不平不快の大病も容易すく全治すべし。

○可憐孃と士の氣節

頼山陽が、和氣淸麿を論ずるの冒頭に云へらく、士に貴とぶ所ろは、其氣節あるを以てなり、氣節なきは、士にあらざる也、士の氣節あるは、獨り以て其一身を立るのみならず、以て、國家を維持し、天下の安危を定むるに足れり、國の士氣あるや、猶ほ家の柱あり、舟の楫あるが如き也と。眞とに然り、士の氣節は、深く養成せずんばある可らず。而して、之を養成する方の一つは、佳人淑女が、大丈夫を慕ひて、劣郎

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

賤男を擯斥するとにありとす。呉王、細腰を好めば、宮中に餓死多かるべし。左れど、呉王をして細腰を好むものとならしめたるは、亦た細腰婦人なるらん。英國の淑女、水兵を慕ふて、ブリテン少年海軍の志願多く、獨逸の佳人、血鬪を壯んなりとして、日耳曼大學に尙武の氣盛んなり。思ふに、大和の乙女、もし大丈夫を招かば、玆に大丈夫出でん、氣節の士を迎ふれば、玆に氣節の士あらん。乙女が好尙の氣韻を改良すると、この故をもて邦家と大關係あり。

○夏日朝夕の祈禱

夜ふけて人眠り、蚊張の外、たゞ蚊の鳴くを聞く。朝早ふして、世未だ起きず、籬根にたゞ朝貌の裝ほふを見る。かゝる時、獨りものしづかに祈りすれば、天地幽として、聲なきに確かに反響せる心地す。あゝ、無私淸淨の極みは、祈る時の我思ひなり。正嚴謹肅の極みは、かくして臺前に出る時の我風采ならん。人間この一つの特權を與へらるれば、世の万寶に優る。水火盜劔も之を奪ふと能はず、邪惡姦曲も之を消すと能はず。あゝ、人間の至寶、何ものか能く之に及ばん。

雜錄

潛靜以養其心、
强毅以篤其志。

玉堂女訓（第一）

山下石翁

○從順の道

古へより、女の德には、從順を尊とみ候。今も、後も、變わりあるべからずと被存候。たゞ、其の眞との意を諒らずして、從順とは、何事によらず、理も義もなく屈從するとと思ひ誤まるものの多きより、古の敎を阿房らしきとに考がえ、今時文明の婦人は、左樣に舊弊の女德を墨守すべきならずと論ずる族も出で來たり候。必竟は從順と云ふとの眞との意を知らざる故の誤まりにて候。

理も義もなく從へよと云ふとは、決して道にては之あるまじ

く候。道とは、其理を辨まへ、其義に服して、扨て、之を重んじ、之を行ふことにて之れあり、何等の勘辨もなく、只徒らに之に屈服するは、盲從とも相稱え、決して賞めざることに候。然るに、此の道理を覺らざる人々、又は、覺るとも言つて甲斐なしと量見する人々は、古より往々敎を立てゝ「一も二もなく只だ從ふべし」と諭し、泣く子と地頭と亭主とには勝れぬものゆへ、無理なりと勘辨辛棒して、たゞハイ／＼と從ふべしと命じ候。之よりして誤を生じ、今以て其誤を傳へ、婦人は、何事によらず、只だ從順にてある可者と敎へられ候。斯る、道理なき敎を立ればこそ、道理を知れる人は、反つて承服せざることと相成るものに候。道德上に於ては、盲從と云ふことを嫌ひ、譯もなく屈服するときは、たとひ其行に於て賞めらる可き業を爲すとも、眞實の善行として、重んぜざるものにて候。

カントと申す大學者の言葉に、義務を盡すとは、律法を尊重する心にて爲すの行を言ふとあり。即はち、心より、其道を重んじ尊とみて、實行すればこそ、善行とも相成ものに候へ。何故とは知らず、何如なればとも知らず、又、何等の尊敬心ありてにもあらず、たゞ、斯くせよと定まれるが故に斯く爲す、斯く爲さゞる時は擯斥さるゝをもて斯く爲すと言へる心持にては、何如に目に見ゆる善事を行ふとも、其心は決して道德上殊勝なるものには無之候。水が下きに流れ、雲が風に拂はれ、春到りて花咲ひ、秋來りて虫鳴き、木、上に登り、雨下に落るとも、誰ありてか之を善行と見做すべき。そは、此等の事、たゞ自づからの成行にして、意思の決斷にはあらず、心に善悪を撰びて其優れたる方の一つに從順したるにてあらざる故にて候。左れば、譯もなく、理も否もなき、從順は、決して眞との女德といたすまじきものに候。

左らば、何如なるをもて、眞の道と致すべきやと問ふに、心に善しと認とめ、美くしと感じ、眞理なりと悟りて、扨て之を敬重愛慕するの心より之に從順するを以て、道と致し候。斯る心より發する從順は、人の最大美德にて候。クリストの御敎にも、我は柔和なるものなりとあり。ポウロの敎訓にも温柔と云ふことを頗ぶる大切にいたされ候。をとなしやかにして美くしく順がふと申すは、實に高尚を極めたる德にて候。必らずしも、女のみの愼しみにはあらず、男子といへども

亦等しく履み守るべきの心得にて候。されど、天地の美に象どり、あらゆる優雅の德を一身に集め申すべき婦女子に於ては、此德を切要すると更に一層の譯にて候。

何故、從順の德を美といたし候やと云ふに、第一は、其我儘を抑ゆるの故によりてに候。王陽明と申す支那の英傑の言葉に、山中の賊を夷らぐは易けれども、心中の賊を平らぐるは難しと之れあり。我胸に起る賊心は、討伐すると中々に出來がたく、やゝともすれば之に與して、共に謀反するとと相成るものに候。手近き一例を擧んに、無理亂暴を言ひかけられ、失敬千万のあつかひに出で會ふときは、誰しもムッとして、此奴、何ものぞと憤懣する心即坐に起り、情激し、意荒立ちて、思はず邪念もきざすものに候。此の時、勘辨ふかき温和しき人は、暫らく辛棒して篤と先方の樣姿に注意し、此は何事か誤解してかゝる亂暴の事を言ふにはあらざるか、又は、此は彼の人平常の僻にて實はあはれむべき一種の病にてはなきか、又は、此は彼人禮を知らざるの故にて自身に於ては何の別狀なきほどの事にあらざるかなんど、仔細に觀察し、憫れむべきは憐れみ、恕すべきは恕し、又は、自からに省みて、深く同情を表し、篤と勘辨して輕々しく怒らざるは、必竟、心中初發の我儘の念を抑へ、温和にして、人に忍び、人に耐ゆる、從順の念あるが故にて候半か。此れ、從順の德の美なる所以の一つにて候。

第二には、人を愛するの故によりてに候。前段に述べ候至極の勘辨を爲すは、即はちこれ人を愛する所以に之れあり、只管ら、己を制し、我意を抑へ、わが些々たる譽れを棄て、專ぱら、先方の誤まらぬよう、陷いらぬよう、いよ／＼惡に增長せぬよう心配し、何よりも先づ先方の善に發達するとを第一と心掛ればこそ、辛棒も出來、從順も立ち申すべけれ。これ必竟、人を愛する心の切なるゆへに有之、即はち從順の德には、愛の念大ひにこもり候をもつて之を美といたし候。

第三に、從順の人は、強く道に從がひ道を守るものにて、表に温柔遜節をつくし、ひたすら人に下り人に許すは、裏に確乎として、道を固く守るの精神あるゆへにて候。されば、眞とに從順なる人は、内心至つて強きものにて、不羈獨立の氣象勃々たるものにて候。それゆへ、大勇者は、容貌婦人の如く、何事にも人の下につきて、敢て爭はぬ從順のものにて候。こ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

れ、必竟、内心に堅く守る所のあればにて、從順の裏に、獨立のハヅキ至つて强く存するが故にて候。されば、不羈獨立の精神盛んなるをもて、從順の德の美なる所以の一ヶ條といたし候。

從順の德は、右樣三つの美分子より成立ち、至つて强く、至つて愛ふかく、至つて愼しみあるものに有之、其道を守るも、人を愛するも、自らを制するも、皆な强烈なる精力を要し、決して弱々しき人の爲すとを得ざるものにて候。されば、從順の德を、柔弱のものと心得、何事にも屈服する卑しき覺悟と誤解すべからざる義にして、是れ眞とに、殊勝なる、力强き、獻身的の一大美德なりと辨まへて、固く守り行ひ玉ふべき所のものに候。

理學

燐火（一）

けい子

きのふけふ立ちそめし秋風を、知らず顔に、綠深き木々の梢に、いとすゞしげな羽衣着なし、うつくしよしと鳴きし蟬の聲も、いまは早や聞こへずなりぬ。仰ぎ見れば、宵の空唯り時知り顔にすみ渡り、遥あなたの森かげ越て、斜にのぞく三日の月、淡く皎く、纎く細やかなる光を放ち、空に滿る千万の星に、明を添へ、野邊には尾花、女郎花、葛、撫子、白萩糸萩、小萩、など淸らかに、咲き匂ふさま、いとゆかしく、千種がくれに、すだく虫の聲、幽かなり。此處に、忍びやかに歩よる、二孃あり、甲「あんなに靜に來ても、矢張鳴かなくなつてしまいました、乙「それですから私が、そんな無風流なことは、お止しなさい、虫は遠音に限りますと、申たのに、又動物學の標本にでも、なさるおぼしめしではありませんか、甲「まさか、そんな積りは御座いませんが、折角此處まで來たのに、鳴かなくなつては、つまりません」今は早や望み絕へて、力なげに見やる目先きへ、いづこよりか、一疋の螢飛び來れり、甲「アレ螢が」と一聲高く團扇を揚て、之を捕らんとす、乙「アラ又ですか敏子さん、お止しなさい、此景色に、螢とは、言葉にも、筆にも、盡せぬと思ふて、一心に見て樂んで居るのを、其團扇で、一擊に打ち墜うと爲るのは、餘り

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

無情ではありませんか、秋の螢は、鈴鹿箱根の山間まで、はる〲杖をひかねば、見られませんのに、今宵圖らず、此野で見るとは、何んとまァ、好い都合では、ありませんか、どうかもう、追ひかけることは、止して頂戴、甲「靜子さん、御免なさい、本統に之れは、私が悪う御座んした、私の無風流者には、あなたもさぞ、お呆れなさつたでせう乙「イヽエそんなことはありません、マァそんなこと御命るよりは、アレあの螢を御覧なさい、大層よく光りますこと、あら〲あんな高い所へ居つて、ゆく螢雲の上までいぬべくは、秋風ふくと厂につけこせと云ふ、業平卿の歌がありますが、こんなときのことでせうか、あれ〲もう見えなくなつて、しまつた、甲「螢は消るし、外の虫は鳴かず、唯蚊ばかり、ぶん〲いふて、集てくるには、恐れます、もうそろ〲歸りませうか乙「ヘエ歸りませう、ですが敏子さん、よく考へると、螢は本統に妙ではありませんか、あんなにぴか〲、光て居ても、手にとると、熱くはなし、どうした理由でせうか、外にも何か、あんなものがありませうか、あなたはきつと、御存じでせう歸りながらどうぞ、話して頂戴な」互に歩を還し、葉末に置く、玉なす露を、ふみくだきつゝ、談り出しぬ、甲「私だつて、能くは存じませんが、螢の外にも、矢張夜分光る虫は、隨分あります、恰度四五年前の夏のことでした、鐵を鎔かす許の熱さに、學校も閉られ、第一の學びの道暫く休みて、第二の學びの窻に、自ら養ひ修むものと、避暑がてら都の塵を、程遠らぬ龜井戸村に、避けしことがありました、其頃村はづれに添ふ、小川の畔に、年久しく生ふる、古柳がありて、其下に毎夜〲火の玉が顯れると云ふ評判高く、我れも〲と、皆連れ立ちて三三五五、彼處に、つどへり、私も所謂こわい物、見たさの俚言に違はず、日頃の憶病に似もやらぬことながら、隣家の小娘に伴はれ、或夕暮見物に參りたり、餘り近寄るは、氣味悪しとて、柳を去る十數間の、小橋の上より、望み見しに、直經尺餘の火の玉、青き光を放ち樹下に泛ひ居れり、其光或は昏く、或は明く、或は離れて、球火の如く、或は合して、火團の如く、あたりの光景いかにも蕭條しく、憶病の吾先つ催して、家路に向ひました、翌朝茜根さす日、猶高からかに、柴戸を音なふものあり、あと答て、庭に立ち出で見れば、村翁五兵衛と云ふ人、一籠の茄子

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

をさげ、我草の廬を訪ひ來れるなり、マアこなたへと言ひつゝ先きに立ちて共に座につき、對話數次の後、遂に話柄變じて、火の玉のことに及べり、五兵衞子云ふ、そは近頃面白き話なり、我今晩彼の樹の下に至り、必ず其火の玉を、捕へ來り、見世物に出し、巨利を博しくれんと、談笑刻余辭して家に歸りましたが、其夜豪膽なる奇人五兵衞子、大なる麻風呂敷を以て、彼の玉を捕へ來り、私に見せました、此火の玉の正躰は何んでしたろうか、靜子さん、おあて遊ばせ、乙「どうもわかりません、鬼火ですか、心魂ですか、甲「なあにそんなものでは、御坐いません、小虫でした、螢によく似て、螢よりは小さく、頭の赤い、羽虫が數百疋、麻風呂敷に包まれて居ました、之れが火の玉の正躰です、其外彼の有名不知火ですが、あれは神代の頃から、言ひ傳へて、能く人の存じて居る通り、筑紫潟の海上、陸地に近き所で、燃ゆる火で、不斷でも、雨夜には、顯はるゝそうです、されど八朔大晦日の夜は、格別多く燃ゆるとのことにて、肥後の宇土八代、肥前の島原邊へは、遠路はる〲見に行く人多しとか、聞き及ひました、此不知火の原因につきては、其說種々なれど、矢張海虫の光を放つものなりしの說、實理なるやに存じられます、金剛石の異名を夜光の玉と云ふ如く、冷光を放つのも、硫化カルシユムの暗夜、光を放つも、皆總て燐火性物と云ひます、此燐火性物のうちにて、冷光を放つこと著しきものは、燐と云ふものです、此物は人間を始め、其他動物の骨の中に在りて、動物死して骨碎けるときは、骨分解して、燐が離れ出でます、此燐の放つ光を、燐火とも、鬼火とも、云ふようです、同じく動物の死躰より、出る氣で、燐化水素と云ふ、瓦斯があります、これは至て輕きもの故、空中を飛びあるきます、魂魄と云ふのは、この物ではありませんか、乙「なる程お蔭で、螢のことも、其外の光り物のことも、會解ました、併しひとだまは、梅雨の頃から夏にかけて、多いとのことですが、何故で御坐いますか、甲「夏は食物が、早く腐敗と、同じ理で、死躰の腐敗ことも、隨て速く諸處の、破塚古墓所、より多く燐氣を發しますし、梅雨の頃は、濕氣腐敗を助けて、一入分解を催し人の戶外出も夏の夜は、一層多き故、能く飛び物を、見るので御座いませう、又燐化水素は、高く飛ぶも、間餘に過ぎません、それよりづつと高く空中を、

飛び行くものは、流星です、此流星は、極て小なる遊星にて、此宇宙を、運行する途中、我地球に近くときは、地球の引力の爲めに、引き寄せられ、空氣中に入り、其中にある酸素と化合して、光を發します、あの光り物が、糸の樣な尾を、殘して行きますのは、星の實質の一部分、燃えて飛び散る故、あんなものが現はれます、此流星は四時ともに、空中に顯はれますが、殊に七八月の頃は多きよし、此頃になると、恰度多くの流星が、我地球の近邊を、通るものと見えます、乙「ヲヤそうで御座いますか、されど其流星が、飛びそこねて、墜るやうなことは、ありますまいか、甲「御座いますとも、流星の飛び去る力、地球の引力に、勝るときは、我空氣の中を通り過ぎますが、飛行の力、他の引力に劣るときは、地面に墜ちます、之を隕石と云ひます、乙「ヘエなる程、左樣で御座いますか、終まで伺えば、恐しいことも、ありませんが、中頃は、餘程こはくつて、こんな夜途では、堪らなくなりました。

論説

歐米女子高等教育の近況

津田梅子

近頃日本に於ける女子教育上の輿論を考ふるに付又數多の師範學校女子部が廢校せらるゝの實況を見るに付種々心に思ふところありしが偶歐米女子高等教育の進歩に付左の一稿を見て大に感ずる處なきに非ずそも此一篇はペルセルバニヤの大學校にて此度更に女子の入學を許さんとするに際し其開校式場に於てブレンマー女子大學の教幹博士トーマス女史が演說せられしものゝ拔萃に過ざれども此を見て以て歐米女學の進歩に付聊窺ふを得べく又これを我國女子教育の程度に比較して大に學ぶべきところなきにあらず蓋し我國の女子は天性歐米の女子と異なる所あるにや高等教育の事はさて措き何故に師範部までも女子の爲には校門を開かざるものあるにや如何なる點が欠くるにや躰弱き故か智淺き故か德に乏しき故か、我等は遂に全く高等教育を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

受くるの價値なきにや、實際に疎からずしかも理想高き敎育ある婦人は遂に我國に於て見るべからざるが、女子敎育を以て任じ給ふ當路者は如何に考へ給ふか、心ある姉妹たちは我國の女子敎育問題を如何に考へ給ふべきにや聊左の一編を參考の料にまで呈せん。

余は今回かのペンセルパニヤ州なる大學に於て其專門科に女子の入學を許可せらるゝに際しこの開校式に於て一場の演說を試みん事を委托せられたり余は今日一方ならぬ感謝を以て校長閣下と職員諸君の招待を忝ふし以て此の席に列せり如何となれば我等ブレンマー女子大學に關するものには女子の高等敎育は大切なるものと考へられ又殊に今回の美擧を貴州の女流に對し一層の注意と滿足を與ふべきものなれは也。

余は女子敎育上に於ける勝利を枚擧すべき好機に會せり苟くも優美なる婦人を望むと共に同しく智識ある女子を要する人々にはこの十九世紀數十年間は恰も春時將に笑はんとする千萬の蕾に對して心を碎き先きなる花後なる花を打護るが如くなるべし今や爛熳たる花の種類いと多く我等をして一々數ふるに暇あらざらしめんとす。

先つ歐洲の地圖を繙き南方より學事を探るとして我等は先づ暫く西班牙伊太利に足を止むべし西班牙には十個の大學校ありて何れも婦人に對して其校門を閉つる事なし且八年前より政府の管理に係る高等中學の試驗には女子も同しく參列する事を許されたれば從て毎年西班牙女子受驗者の數は數百に上ると云伊太利にも十七個の大學校ありて其多數は西班牙と同しく女子の入學を許すこと皆一千八百七十六年時の文部大臣によりて認可せられたるものなり昨年又新に羅馬に於て女子の爲一個の高等學校設立せられたり溯つて一千百十六年有名なる法律家イチリヤスがボログナに於て二個の法律大學校(其中は世界中古時代の最大なる大學校の一たり)を設立せしとき彼は入學者に對して別に男女の區別をなさゞりしなり實に其校に毎年充滿するところの一萬の學生の內には多くの女性を見受け其女性の內には學位の稱號を得るもの少からず又其校に於て博士或は敎授の椅子を占るものさへあり而て當時一人の以太利婦人は或醫學校にありて敎授の位置を占め男子の一大聽衆に向て演說する也。

羅甸邦國の首位を占むる佛蘭西は又其敎育上の進步に於て實

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に首位を占むる所あり即巴里のカレーヂ、デ、フランス、及ソーボンヌは女子のため既に數年前に開かれたるものなり。一千八百六十六年より一千八百八十二年迄に女子に與へられたる學位の數は百〇九にして唯に學位の稱號のみに非ずして懸賞の道開けしより一千八百七十二年には紐育のドクトル、ゼ、コビー女史は醫學に於て實に第二の位置を占め又第二の賞を得られたり。

瑞西は共和國となりし以後其中等高等の教育上につき男女一般に同等の利益を與へたりズウーリツクが一千八百六十八年に女子の入學を許すや他の大學は皆續々と其先見に從へり又かのボログナ大學のドクトル、エミリー、ケンペン女史は其校の教授會に於て隨分烈しき討論なりしにも係らず遂に法律の講師となれり。

他の歐洲各國の事情は既に喋々するに及ばざるなりオランダ、ベルジヤム、スウ井ーデン、デンマーク、フインランド、ノルウエー等何れの大學校も何の科に關らず自由に女子の入學を許す也。

ボヘミヤ、ハンガリーは今この問題につき研究中なり魯西亞の大學は或時に女子の入學を許し或時は許さずソルビヤ、バルガリヤ、グリースに在りては未だ男子教育の道さへ完からされば女子教育に就きては始よりこゝに論ずるに及ばす故に今更に歩を轉じて日耳曼、墺太利のことを少しく考へん。

墺太利に於ては學位の稱號を與ふること及び女子を公然入學せしむるとは未だ行はれざれども女子に大學の講義を開く事を許せしよりかのビーナの高等醫學校の講筵に列して夥大の益を受くるもの少からず。

日耳曼の女子教育に付ては大に考ふべきものあり我等の既に知る如く全國二十一個の大學校は何れも女子の入學を許さず余がかしこに滯在せし三年間の經驗によれば彼國婦人の位置は大に他國のものと異なる所あり教育社會のことは多く男子の專有に歸し從て女子は其中にありて好位置を得ざるものとす例せばプラツシヤに於て百に對する九十二の公立學校が皆男子の手にあるが如き實に日耳曼の婦人は大切なる教育上に在て其感化力を及ぼす境界の大に制限せらるゝ者とす從つて婦人中高等の學科を修めんと志すものは僅少なり。

然り國情如此と雖もし女子をして奮起せしめ熱心に請求する

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ところあらしめば又大に國の習慣を破り得べき也即ボイリン大學の次位にありて三千人の生徒を養成せるリツプヂツク大學が數年前女子の入學を例外に許可せしことの如き余は實に彼校に於て三年間學び居りしなり其以前にも數名の女子は入學を許されたる事あり昨年又我ブレンマーの卒業生二名は彼地に笈を負へり其これらの入學生は皆特別の好意を以て學ぶを得るものにして實は國の法律上正當の權利を有するものには非る也而て又今年はかの日耳曼第一なるボイリン大學に於ても數學研究のため我ブレンマーより至りし一女生に其部分の講莚に列する事を許したりこは其大學の校長が自ら大なる數學家にて己れの講義を聞かんと欲する一女生の熱心なる願望を如何とも否み難きところありし也。

然り如斯して好運は益々日耳曼女學の上にも開かるゝ也三ケ月前ベーデンの公爵は己れの領地にある有名なる二大學校の門戸をして女子のためにも開かしめたり。

英國に於て女子敎育上の大切なる針路を取りしは一千八百六十九年にして當時ケンブリッヂ大學に六名の女子が始めて入學を許されたることゝす夫より一千八百七十五年にケンブリッヂに於て女子のため別にニーハムカレーヂの開かれしこと續ひて一千八百七十九年オクスフオードに於て女子のために又二ツの大學校の開かれしことゝは共に女子敎育上緊要の基礎を置きし者といふべし一千八百七十八年にはかの有名なる倫敦大學の試驗及び學位の稱號を男子と同じく婦人に分つに至り一千八百八十一年にはケンブリッヂ大學の議員會に於て三十二に對する三百九十八の投票大勝利を以て公に女子大學の學生をして「ツライポーエキザミデーション」に加はるを許し加之試驗の成績により其女子受驗者に與へし學位を世間一般に披露する事を決議せりこの試驗に於てかのゴイトンカレーヂのミス、ラムシーがプローフエーサー、ピーブ氏も及ばざりし程の好結果を奏せし事及ニユーハムカレーヂのミス、フオーセツトか數學上の大勝利をとりしとは共に世人の注目する處にして是等の二女史が勉學上又豫備上男子の如き好遇を得ざりしに却て其結果に於て如此き功を奏せしことを以て聊か女子の器量を輿論に訴ふるを得べし又この榮譽ある兩女史が數年間の苦學により又この困難なる五日間の競爭試驗により少しも身躰健康上に害を與へざりしことを思へば世の女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

學と健康につき喋々妄辯する輩に一省を希ふことを得べし。

一千八百九十年ニューハムカレーヂの校長ミスエス、シードウィクは女學生健康上に關する統計表を編纂せりこれによりて見ればこの「ツライポーエキザミチーション」の女子受驗者二百六十九人に對して其女生の姉妹又從姉妹など最親近にして且年齢同等なるもの丶就學のため少しも身神を勞せざりしものを撰びこれを相比較せしに前者に對して後者の不健康なるもの丶割合は六と十一との如く又其人が結婚後の有様は前者の健康なるもの七十八に對する後者の六十二に相當し且其産兒の數小兒の生長等も大に前者に比して後者の劣るを見たり今大西洋を横ぎりて亞米利加に達し先づ加那太の學事を巡察せんかしこにはノバスコシヤ、ニューブランスウイック等男子女子を全樣に教授する大學校五個あり又未だ男子と同じ教場に列するを許さ丶れども學位の稱號を女子に與ふるもの三個あり。

合衆國の西部二十聯邦とユータ州とは各一大學校を有し皆女子の入學を許す西部大學の統計表によれば技藝部と學術部に女子入學を許すもの百九十五男子同等に教授するもの百六十五、女子のみのために設立せられたるもの三十あり南部に於ては總て三十テキサス、ミスシッピー、ケンタケー、ルイヂアナ、の大學殊に著はる今是等の大學に學ぶ女生はすべて七百五十名とす東部に在りてはメインに三個の大學ありて其内二校は女子の入學を許す其他ポイマウトンの高等中學大學と云ひエールの如きブラオン大學の如き又ボストン大學に如き皆女子を歡迎するものとす而てバッサル、ウエレスレー、スミス、ブレンマーの四校はこれ專ら女子のために設けられたる大學にしてこ丶に學ぶもの殆ど二千に下らず……

（附言）トーマス女史の演說は此後猶引續きて合衆國新英蘭土の高等教育につき論する處ありされど其教育論は今日本にとり緊要のものと認めざるにつき爰に省くことゝなしぬ

而して又編者は始よりこゝに日本女子教育論を試みざるべし否試みんとするもとより見識に乏しきを信ずるなりされど凡て女子教育の眞不眞は唯に其議論の上にのみ限らずすべて從來日本の瞭義に大關係あるとを信ずるにより心ある讀者が今一層我國女子高等教育問題を案せられんとを希ふのみそも歐米の男子教育事業は明治以後多く我國の注目する所となれり否實に模範を彼に取りし處多しされば又泰西諸國女子の進歩其家族と社會に於る位置其事業の現象並に其原因たる女子教育事業をも觀察するとは又無益のことに非ざるべきか

兒籃

犬つくをどり

（其一）

しづ子

いづこの國か知りませんが、犬口とかいふ奇妙な名前の家族が有つたさうです。夫婦に子供五人計りで、豐かに暮らす人々でしたが、どふいふものか、家中の人が些細なことに言葉合戰をして、余處目には、あれでも家族の間に和樂があるかと疑がふ計りでした。さりとて、大喧嘩をして、夫婦兄弟離散するといふ樣なことはないのでした。たゞ人には、一ッ家に居られるが、不思議と見へる位なことでした。

父と母は先づ凜とした人たちで、仲のわるい方でもないのでしたが、たゞ何となく互のいふことを否んでみたり、互の說に反對のしあひをしたりするのが好でした。一人が何か話しをして人に聞かせて居るとしますと、他の一人が其話しの最中何度となく口を出して「イヤそこはそうでない」とか、「そこが少し違つて居る」とかいつて、誰の爲にもならず、面白味もない些細なことに咎めだてをし升た。たとへばある時二人餘處へいつて、御馳走になつて居るとお考へなさい。犬口夫人の方が先の主婦に時候の話しをしかけられた返答に、

さ樣でム升、實に不順な時候で、昨朝などは充分持直す鹽梅だと存じて居り升と、午になつてあの雨でム升もの……

……………

スルト、ずつと座敷の向ふの方に居た犬口主人が、夫なり、父なりの威嚴、聲色著じるしく、

おまへ午だなんぞつて、十一時十五分過位だつたよ、それに持直しさうどころじやない、朝ッから西南に黑雲が一杯擴がつて居たが、おまへは兎角小さなことは見樣が粗漏なり、見ても記臆して居らんから子、

然るに犬口夫人もさるもの、一本や二本で降參をする方では有ませんでした、それ故、膝に伸しかゝつて、夫の顏を覗き込み、

またあゝですもの、わたしらの申すことといふとオホヽヽみなさんお聞遊して下さいまし。私の記臆が好のわるいのつて、そんなら自分のはどふでせう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

おまへさういふけれど、いつか親睦會に二人して招かれた時、時間をすつかり忘れたじやないか。

と主人が詰れば、夫人もすかさず、

あなたに伺つたつて、矢張り覺へてはいらしやらなかつたじや有ませんか。

と手紙の名宛はおまへのだつたじやないか？

でも、下女に持たせて、直ぐとあなたにお眼にかけたでせう。

おれは讀なかつた。

おまけに燒いておしまいなさるんだもの、招待狀を燒くほど馬鹿なことはありやしませんよ、いつもわたしが申す通り、

犬口主人は冷笑しながら、

イヤ、いつも仰るでせうが、一度もまだ拜聽したとが有ませんからな。

そこらでは誰の記臆がわるいのですか？

と夫人が得意にいつた時、御飯がおしまひになつて、一同膳を離れ升たから、主人どのは不平ながら口を開かずに濟し升た。この通り犬口夫人は今となつては、隨分口巧者で、夫に遣り込められて、だまつては居ませんでしたが、元、新嫁で若い時分には口を開く度每に夫にいひ伏せられて、顏を赤らめて下をむく樣でした、併し十五年間もつれ添ふ中には、夫の氣心が知れ、口小言をいふほど、心にわる氣はないと分り、知らぬ人が聞いて、背に汗する程ひどいケンツクも、くれられた御當人には些か感ぜぬ樣になり、却てケンツクのしつぺ返しをする氣になり升た。お互の間は此通り分り切て、ケンツクも、言葉がへしも、賣物買もので、双方損得はないとでしたが、一番に迷惑するのは側の聞手でした。夫婦のものは慣習が性となつて、互に遣り込めくらべをして遊んで居る樣なものでしたから、夫婦間の交誼には一切變りは有りませんでした。たとへば、なんぞの會へ出て、人目、人聞を憚からず、今の會食でやつた樣な工合に憚なく思ひ存分舌戰に時を移して、並居る人の誰かれは、心配して、人聞がなくなつたら、小糶合のあの火花がキット喧嘩の大火事に燃上るだらうと評判して居ると、案に相違の夫婦兩人は、合乘の車上、自分等を品評して居る男女の批評とり〴〵、言葉の上を除いては

中よく家に歸ることでした。

子供といふものは大概口八釜しくいひ爭ふものです。まだ大ころと同じ樣で、自分の思ふ通りいつてはなぜわるいかそんな斟酌はまだ知らぬものですから、その口論を鎮め、世の中には種々さま〴〵の人が有つて、毎も考へがちがふもの故、大抵のことは辛棒をし、ミス〳〵違つたと知つても、場合によつては、だまつてさし控へねばならぬといふことなどは、兩親が敎へ置いて、其手本には自分等の行狀を見せねばならぬのです。然るに兩親たちが此通故、子供たちは却てアベコベに反對を見眞似し、五人の中年嵩の二人が子供部屋の爭論には中〳〵達者の腕前を見せ升た。殊に姉と弟は、辨も巧みでおまけに日毎夜毎のお稽古が積んで遣り込め合には、妙を得る樣になり升た。先づ朝飯前に始まらなければ、朝飯の時にはキットでした。

アレ僕の茶碗とつたね。

おまへのだものか。

僕の好なんで、僕の坐る處にのせてあつたに違ひないや。

そんな慥かなことがいへるもんですか。

でも知つてるから仕方がない。

知るものんですか。

知つてるつていへば。

始めつからあたしんとこに有つたつて、いつたらどうなさる。

さうでないもの、さういへやアしないや。

いわふとおもへば、いへるわ。

それじやア、本當に有つたのかへ、ねいさん?。

それはどつちともいわない。

なかつたもんだから、そら見たとか。

なにそんなことが、

といつ果しの有るといふ譯りは有ませんかつた。

ある時姉の方が泣事をいつて、

本當に男の兒つて、頼んだことをして呉れた例は有りアしないよ

といへば、弟は

女の兒ッていふものは、途方もないことを頼んだもの。

おまへの方が頼むことと比らべて御覽なさい、どつちが途方

もないかさ。
それアおほちがいさ、途方がわらうが、なからうが、女といふものは男に從がふに始めつから諦つて居るんだもの。
そんな諦りが有るもんか、夫婦になつた人は知らないけれど外の人は。
一體女は劣等な動物だァ。
そんならおつかさんを………
弟はさへぎつて、
男は先導者で、女は附屬物だつて、誰に聞いても、いふじやないかね、僕なんか嫁を貰らへば、キツトいふとを聞かせるから、見てゐて御覽、姉さんだつて、お嫁に行けば、亭主にへイ〳〵しなけりアならんサ。
お嫁になんか行くもんか、獨りで勝手なとをしてるは。
獨りでなんか居得るもんか、一處懸命行くとこ見つける方だらう、女なんかみんな嫁に行たがつて計り居らァ。
そんな馬鹿らしいとが有るもんか、弟でもある人はモウ男にはコリ〳〵する筈だは。
とこれからまだ中々先が長いことでした。

「上これを好めばといひ升が、主人夫婦の習慣が一家族のものは勿論、僕、下婢の心ばへにまで關係をおよぼした鹽梅は驚く計りでした。御主人も奥樣も下の人たちには随分深切な方でしたが、何故か、勝手元にも、廊下にも、下女部やにもいさかひのないとは有ませんでした。臂の突合ひ、ケンツクのくれ合ひ、眼と眼の眺み合ひは普通の交際でした。飼犬さへが、流行の風に侵され升て、人を下に見るほど自分に品格もないくせに、兎角家風に染んだものと見へてこゝへ立寄る人といふ人に吼ついて嫌はれ升た。誰でも家に近づくと見れば突然跳びだして、上づッた奇妙な調子で「ワン〳〵、ワン、ケヤン、ケヤン、ワンと吼へ升た。人が立止まれば、大あはてに惶、横なりに跳で逃げ升たが、歩み出しさへすると、踵について、ワン、キャン、キャン、ワンと相もかわらず吼へて居り升た。乳やの男にも、酒やの小僧にも、新聞配達にも「人」の吼ない人なく、毎日見る人にも一向慣れ親しむといふとが有ませんかつた。夏になり升と、門の側へ坐つて居て、車が來ても、馬か來ても、人か來ても絶間なしに吼て居り升た。肝腎の泥棒よけに吼る折は殆どなく、たゞ人耳に、五月蠅がられる計

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

りの様でしたか、ある時、冗談でなく、本當に泥棒が窺ひ寄り升たが、それと見る「八」は、こふいふ時こそ平常の吼なみを見せねばと、ヤッキとなつて、吼へたとも吼へたとも、大吼にほえ升た。然るに家内の人たちは、「また「八」がうるさいこと」とて、耳に手をあてゝ寐反りをして誰一人起出るものさへ有ませんでした。それ故此時泥棒は大得意で、銀瓶其他金目のものをウントいふほど脊負ひ出し升た。犬口夫婦は其折の殘念さを語りいで、「八」を不信用にした最初の帳本人は誰といふ問題につひて今だにいひ争つて居り升。

酒醉の男千鳥足して家の敷居を跨ぎしな、迎へに出た妻君に

モウ一時だナ、

いゝへ、四時でム升、たゞ今、四時が鳴つた計りで、

ナアニ、四時のとがあるもんか、今おれのこの耳で、チヤアンと聞いて居たぞ、一時の鳴るのう、おまけに御丁寧に幾度も鳴つてたつけ……………。

家政

香水と石鹸

馨子

或人曰ふ香水は不潔を覆ひ、石鹸は不潔を去ると、故に其國々にて、此二物の費消額を統計するときは、其國民の開化の度を察し得べく、其住民の氣質をも知り得べしと云へり。此説を或る一方より解するときは、香水を用ひるは、宜しからぬやに思はるゝなり。されど是れ全く其用ひ方によりて、よくも惡くもなることにて、玉の肌を雪の如く白く琢き、淸らかなる衣服を着け、猶花の薰りを添んとて、良質香水を用ふるは、婦女のたしなみ、彼れ是れ非難すべきことにあらさるなり。其れをあしざまになみする輩は、記者にも優る不粋者、採るに足らず。然れども其目的玆に出ず、今日は湯に入らず、汗臭き故、香水を顔と手に塗りて、其臭を消さむ、昨日は肌着の洗濯を忘れ、油臭き故、手巾に香水をふきかけ袂に入れて惡き香を胡魔化さむ、なぞと云ふ野心を起されては、いかにひゐき目より見ても、振りの明漏る留奇南の薰りゆかし、とは

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

申されず。總て香水は氣發し易く、忽ち飛散するものなれば、之を不潔の所に塗るときは、直に其不潔物を荷ひ去て、撒き散すなり。若し香水、酒精を多量に混じたる、安價のものならむには、殊に堪え難し。多人群集するときなぞには、一層注意すべきことなり。

石鹼を用ひるにも、亦其撰び方に注意すべし。肌膚にひりくしみる、石鹼は宜しからず。凡て人々の肌膚は、二層の薄き皮より成り、一ツを表皮と云ひ、他の一ツを眞皮と云ふ。眞皮には血管神經共に備はる、表皮は然らず。然るにアルカリ性強き石鹼を用ひるときは、垢を去りて表皮を侵蝕し、眞皮に及ぼすを以て痛みを感ずるなり。小兒を洗ふにかゝる石鹼を用ひるは特に嚴禁とす。石鹼を製するには、脂肪或は蠟を鍋に入れ、先づ之を靜に熱して熔解し。次に苛性ソーダを水に溶して、之に加へ、熱を高めて沸騰し、脂質をして充分苛性ソーダと結び附かしむべし。然る後一攪みの鹽を投じて、鍋を火より遠ざけ、暫く靜置するときは、ソーダは脂肪中の脂膩酸化化合して石鹼となり、液面に浮び、脂肪中のグリスリンは、水分と共に器底に集る。此水分を注ぎ出して後ち、再び苛性ソーダの濃き液を加へ、よく煮るべし。此時加ふる所のソーダ、多過るときは、しみる石鹼となるなり。又少き時は垢の墜ちぬ石鹼となる、其度合甚た六ケし。斯の如くしてソーダ液と、石鹼とよく化合せし時を見計ひ、再び鹽を投ずべし。されば、石鹼と水分と分離するなり。此に於て、石鹼をすくひ出し、香料繪具等を混じ、型に厭し入れて、乾かすべし。又始て石鹼を製するには、種々の困難ありて固り難きものなれども、蠟燭の流れを溜め置きて製するときは、出來そこなふこと稀なり。

書架

○貴女の心得

穎才新誌社よりの發兌にして、近藤嘉三氏の編輯たり。婦女坐右の鍼。淑女の心得。夫人の心得。化粧の要訣。談話の心得。訪問の心得。賓客待遇の心得。室内裝飾法。和歌の書方。香道の心得。茶道の心得。新式挿花法。家庭衞生法。等を雜說し、別に名媛佳話を附錄となしたり。百八九十頁の中本にて、定價十四錢とす。之と云ふ自立ちたる節はなけれど、よ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

く集めたる調寶の書なりとす。

○近松戯曲に於る女子の性格を論ず

仙台の第二高等中學校尚志會より發兌する同雜誌の第一號に、櫻牛子が起草にかゝる右題の評論一篇見ゆ。近松が特色は、生ける人物を寫せしにあり、馬琴の人物は、繪畫彫刻の類のみ、華麗人を喜ばしむと雖ども生命なしと論じ、扨て本文に入りて、云く

近松は、女子の本性を以て愛なりとし、之に附するに名譽を以てせり、此の名譽とは、狹隘なる意味を有するものにて、平たく言へば、只だ他人より悪く言はれざらんと務むる消極的意志に過ぎず。

彼は、嫉妬は、愛の反面なるとを看破せり、彼は女性に特有なる不注意(ケアレスチス)を以て強大なる愛が理性の明を奪ひたるの結果なりとせり。女子にして、若し勇氣あらば、愛の感激に基くべきを信ぜり、若し罪を犯さばそは、愛の教唆に起るべきを信ぜりと。

かくて「楓狩劔本地」の玲瓏姫、世繼御前。「阿波鳴門」の左近の妻お雪。「天の網島」のおさん。小春。「出世瀧德」の吾妻。「槍權三」のおさは。「宵庚申」のお千代等を擧げ、一々據所を指摘して、近松が述作せる女性の性格を分解せり。

○ゼヲヂ、エリオト

五月分のウエストルマン雜誌に、ヘドウイッグ、ベンデル氏が起草にかゝる、ゼヲヂ、エリオトの評傳見ゆ、極めて讀むべき價値ありと傳ふ。其中に云く、

彼女は、婦人としても亦記者としても、非凡にして且つ眞個に創發的のもの也。何事によらず、平凡又は便利的の事あらず、つねに獨自一己を顯はせり。彼女は一小世界なり、而も甚はだ復雜せる世界なり。……其頭顱は非常に大きかりし、容貌すべて偉大に丈夫の觀ありき。……其眼こそ見ものなりき、微笑すれば無限の愛嬌現はれ、床しき優雅温柔の德顯然たり。たゞし何事にか熱して激するときは、其顏、サボナローラに似、尤とも人目を惹く。實に彼女は、其心も靈も亦、彼の大改革者に似たりし也。彼女は、彼に深く感化せられ、彼より大なる刺激奬勵を受けたり。………彼女の全心を貫ぬけるものは、其活火なり、其幼なき時、多情多愛なりし事、其少き時、讀書研究に熱狂せし事、後ち、熱心家を愛し、英雄を崇拜し、之に全心を捧ぐるに至りし事等皆な其特質を現はせり。云々。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女報

淡海子編

●子守教授の濫觴　文部大臣井上毅氏は自ら筆を執り子守教授に關する左の一記事を國文第十號に掲く氏は心を女兒教育に注き熊木氏其人を傳へて又其事を奬む誠に見るべきなり玆に之を抄録す

鷄鳴きて起き、孜々さして善を爲す者、今の世に幾人かある。予が聞き知る所にして誤なからむには、三河國碧海郡の子守教授科設置者の如きは、稀に見る所の善行にぞあるべき。明治廿一年三月、小垣江尋常小學校々長兼熊木直太郎氏は小垣江村の一寺院を過ぎ、寺内に群聚せる子守女兒が、嬰兒を取扱ふと疎暴に、又危險にして何等の注意をも爲さず、己等の遊嬉にのみ耽れるを見て、憫然さして其の無智を哀むの情に堪へず。彼等が就學せしや否やを問へば、未だしさ答へぬ熊木氏一時間ばかりも懇に話し、文字を知らざれば何事につけても不自由なりさの旨を諭したるに彼等も打ちうなづきてありけるが數日の後熊木氏の許に來りて、習字手本を請ふもの七八名に及びたり。是れぞ子守教授の起りし始なりける。後數月熊木氏は其の地方に開きたる教育談話會に臨み、此の事を語り、小學校內に子守教授の科を設くることを發議せしも、率行はれずして止みぬ廿六年三月に至り、熊木氏は更に同會に於て前議を提出せしが、此の度は多數の贊成を得て、小垣江及吉濱尋常學校內に設け、通常授業時間の後二時間を以て是に充て、小學校の教室教具を使用せしむることに決したり。其後計畫空しからず、日を逐て好結果を見しかば、當時の愛知縣知事岩村氏は縣下に訓示して、一般に小垣江及吉濱の教授法に倣ひ、女兒教育の普及を誘ふべき旨を諭したり。

熊木氏夙に二の宮尊徳翁の報恩の教を奉し、明治九年以來教育に從事し、褒賞を蒙りしこさ前後數回に及べり。氏は兒童の父兄に向ひて親炙を求むることを怠らざりき。或時農夫の田圃に晝休みし居る處に往き、諄々さして子弟教育の必要を說きしに、彼等は初の程は笑て答へさりしが、後には打集ひ、其の話を聞くに至れり。新刊の教育書あれば熊木氏必先つ購ひ求めて之を讀みたり。其童蒙を導くに於て老の將に至らむさするを知らざる者の如しさ云ふ。

今は大御勅のまに〳〵、天さかる鄙まで、教の道の彌廣まりに廣まりて、子守する賤か女も、文讀むことを知りぬるぞいさめでき。さはいへ敎子の第二の親さも呼ぶへき其の人のなからむには、夏草の繁みが中に撫子までいかでか露の惠に潤ふべき。

子守學校

おくつゆのめくみにもれす撫子の
おくれなからに花さきにけり

云々さ

●春畝先生さ秋畝女史　例の女子の風評に注意厚き、讀賣新聞は、去十四日の紙上に、春畝先生さ秋畝女史さ題し掲げて曰、相州小田原に秋畝女史さなん呼ばるゝ美人あり、去る商家の次女のよしにて、去る頃東京に遊び女子師範學校を卒業して最も和歌に長じ、歸鄉後某校に聘せられて專ら教育に從事しけるが、一日伊藤伯春畝其秀才を聞召して之を見るに、容姿佳麗雅想滿身にして大に下田女史に似たる所あり、且つ其號我に類するを以て轉た愛慕の情にたへず、金帛あまた賜ひて歸へされしが、其後は女史數々滄浪閣に參じて閑夜詩歌を戰はし、或は曉に達する事あり、……云々さ

●伊國生絲商況及養蠶景況　伊國に於ける生絲の商況及養蠶の景況に附き、ミラン駐在帝國名譽領事セ、セ、ロカテリーより、去月二日附を以て左の如く報告あり、（外務省）、

伊國生絲の商況は今日の處にては格別の變動なし、市價は騰貴したれさも四月下旬に比すれは一基に附き十法方下落せり、養蠶業も殆さ完結し目下の處にては好結果を得たるの實況なり、又繭の市價は最初一基に附き五法位なるへし、製繭額は歐洲產の黃種さ黃白交種さ殆さ同量なり、又少量の日本蠶を飼養せし者ありて好結果を得たれさも、歐洲蠶より利益少きため蠶卵商に於て交種用のために飼養せしのみにて、養蠶家及農家に於ては之を飼養する者なし、尙ほ本月下旬に至ては繭の結果に附き詳細の報告を呈送し得るに至るへし、（官報）

●明石いし子　私立香川縣高等女學校敎師明石いし子は去月廿一日出發京都に赴きたる由、聞く所によれば同校の暑中休暇を幸ひ、敎務擴張寄宿舍設置等に就て他女學校の模樣を參酌せんさの考より、京都を始め大阪等に於ける高等女學校師範學校女子部等を遍れく參觀する筈にて、殊に京都には同女敎師の實母あり、又明石まつ子（女敎師の姉）は京都師範學校女子部舍監兼助敎諭なるを以て、先つ同地に赴き追々各地を巡回して、充分視察を遂げる筈なりさぞ、（香川新報）

●東京市十五區結婚離婚月報　東京市十五區に於ける、本年六月中結婚離婚屆出數、及前月比較增減左の如し

結婚	五七四	前月比較減	一六五
離婚	一八三	前月比較增	八

（八月三日官報）

●小學校敎科書の撿定濟　昨年末迄に出願せし小學校用習字、圖畫、地理、理科、歷史、英語の六敎科用書は愈々今回撿定濟さなりしに付き、去十五日各編者を文部省に召喚し、加納圖書課長より前日の如く注意を與ふべき點、訂正を命ずべき點等を指示する筈にて、右六科の撿定出願は合計凡そ四百餘種中、撿定許可の指令を與ふべきもの三百七八十種許りありさぞ、

●英吉利ヨールク公御結婚　去月二十七日香港「デイリー、プレッス」に載せた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る、同月六日倫敦發電報に據れは、英國皇太孫ヨールク公とテック大公女との御結婚式は同日擧行せられたりと云ふ(官報)

●高等女學校長の上京　高知縣高等女學校長、大石監二氏は去月廿七日出港の九州丸にて上京するよし、氏は在京中裁縫教授法及び他教授上に關する取調を爲し、歸縣の上大に改良を爲す筈なりと云、

●共立女子職業學校卒業證書授與式　同授與式は去十一日午前八時より同校講堂に於て之を行ひ、校長代理永井文部參事官より、七十九名の卒業生へ證書を授與し裁縫、刺繍兩科卒業生高木カツ圖畫科卒業生馬杉サダエの兩嬢へは優等の賞として先年　皇后陛下より同校への恩賜金の内を授與されたり、

●慈惠女學院の初會　江州坂田郡長濱町字東本町に、今回同出張所事務所を設け本月五日午後二時より同事務所に於て、慈惠女學院長濱元資積立講第一回を開きし處ろ、贊成者二百三名出席し、毎會金壹圓の掛金にして今回甲へ金百圓、講元へ金百圓は次會毎に四分の一を割戻すの方法にて、定員四百名の處ろ過半數の贊成者初會に出でたるより、次會則ち十五日迄に滿員すべき見込みなりとぞ、

●女子高等師範學校　にては目下缺員ある爲め、來る九月補缺生徒八名を募集する由、其の志願者は尋常師範學校二ヶ年中の課程を終へしか、若くは之と同等以上の學力あるものに限ると云ふ、

●婦人龜鑑　大分縣大分郡高田村、平井田鶴子年十七にして同村の醫師某に嫁し、子を擧ぐ後ち某は東都に笈を負ひ不幸他郷の鬼と爲る、人田鶴子の年少くして寡なるを憐み再醮を勸むるも斷して聽かず、自ら其兒を養ひ夫の志を繼承せしめんと欲し、意を決し兒を負て東都に來り、産婆學を修め、頃日業卒へて故郷に歸り、大分病院の看病婦となり又産婆を開業し、專ら愛兒訓育のとに從へりと、婦德地に墮つるの今日此の美譚あり、大和撫子の色猶ほ古に異らざるものあるぞ目出たし、云々と自由新聞に見ゆ

●女學校設立の計畫　貴族院議員なる、長谷川貞雄氏は遠回濱松町字高町に數反歩の地所を買入れしが、此處に女學校を設立する計畫なりと、

●支那盛京の絲況　東三省の輸出品中繭絲は、其要部を占むるものにして毎年の原絲輸出高銀三百万兩に達し、其外本地に於て綢緞を織造するもの亦少からず、且つ年々增進の勢あり、但し昨年の秋繭は毛蟲の害を被り其收獲は例年の三分一に減せしが、今年は損傷少く收成豐厚にして絲價も頗る昂漲せるを以て、前年來に三倍するの利潤あるへしと云ふ、(官報)

●榛葉一郎氏　は過日華族女學校幹事兼文部省參事官に任ぜられたりと云ふ
(東京日々)

●露西亞内國衛生博覽會の開設　本年彼得堡に於て開設せらるへき内國衛生博覽會は、豫定の如く六月二日を以て開場式を擧行せり、開設の場所は「ミハイル」調馬場内にして、出品の部門は生物學、衛生及醫事統計、衛生衣食住及清潔法、衛生教育、地質氣候及鑛泉の五部に別ち、各部夫々部類を設けたり、即ち出品物の重なるものを擧くれは、彼得堡府「アブーホフスカーヤ」病院の内部構造雛形、醫療器械等より産婦院の圖形、竝に彼得堡府立小學校の圖形其他學校用の器具に至るまで網羅蒐集し、又同府衛生試驗所の出品に係る該試驗上に用ふる種々の器具竝に食品類の良惡を識別するの參考に資するため各種肉類の模造品を陳列せり、且つ開場中は公衆の面前に於て贋製支那茶の分析を爲し以て、之を飲用するの害毒を寡からさることを供示する見込なり、次は帝國水上救難協會の出品にして其溺水人を救揚するために使用する種々の機械、竝に救揚船の雛形等を陳列せり、其他帝國赤十字社よりも病者、負傷者等を移送するための用具類等を出陳せり、殊に人目を惹くへきものは種々の黴菌類陳列部にして虎列剌、西伯利疫其他の傳染病因を爲すべき黴菌類を蒐集せり、又陸軍醫學校よりは人體の化學的分析表及解剖學上の諸品を陳列せり、而して該分析表に示す所に據れは重量四「プート」一「プート」ハ四貫三百六十目强九「フント」一「フント」は百九匁强中の人體中水分の量三「プード」二「フント」、膠質十六「フント」中、脂肪十三「フント」、蛋白質九「フント」三十六「ゾロツニーク」「ゾロツニーク」は一匁一分三厘許燐酸石灰六「フント」二十六「ゾロツニーク」、炭酸石灰一「フント」九「ゾロツニーク」、食鹽十九「ゾロツニーク」、爾他の鹽分中「フント」を有すと云ふ、爾他海軍省、鐵道局等の出品は勿論重なる市府の出品に至るまで夫々衛生に關する技術上の機械、又は雛形類を出品せりと雖も一々枚擧にするに堪へす、現に出品物の箇數は都合四万の多きに達したる一事を以ても其盛況を推知するに足るべし
(七月卅一日官報)

●女子實業補習學校の施設　完全なる女子教育を奬勵するの策として、女子の爲めに特殊の實業補習學校を設け、裁縫其他の女工又は農業を授くることゝせんとは、井上文相の實業教育意見なるが、元と實業補習學校なるものは、尋常若くは高等小學校を卒りたるものに、實業上の教科を授け、且つ普通の教科を補習せしむる處なれば、ツマリ就學義務を了りたるものに向つての施設ならざるべからず而して目下教育社會の一欠點は、學齡女子の不就學多きに在れば、此の際之れを濟ふの策を講ずること必要なり、之を爲すには單に裁縫の一科を課したりとて、現在の如き教育の方針にては、都市は兎に角、山陬僻地の女子をして、一般に就學せしめ得ること覺束なし、故に是れ等の地方に於ては、尋常小學校と高等小學校たるとを問はず、一の女子科なるものを特設し、或は夜間、或は半日、又は期節を限り、其の土地の狀況に應じて、重もに女工又は裁縫を主として教授し、傍ら普通の智識、乃ち尋常の讀書作文習字等を授くることゝせば、たしかに現在の數よりは女子の不就學を多からしめ得べし云々とは、女子教育に熱心なる某氏の物語なり(八月二日大日本教育新聞)

●裁縫熱心　元荒町松操學校へ熊本縣熊本市昇町尙絅女學校の教員、岩間惠美及同校撰拔生大津山ふさの兩子が入校せしが兩子共頗る熱心にて、目下土用休暇にも拘はらず專心勉强爲し居るより、自然進歩も早く二ヶ月間にして高等全科を卒業する見込に付き、其旨朴澤校長の諭示に依り益々勉强し居るとのこと、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●英米に於ける夫婦の關係　去る十六日の時事新報の、ノンキナ雜報欄内に題號の如き一說を揭ぐ爲渡　面白ければ玆に拔載す、或る人の說に夫婦、町にて店に入るや米人は妻を先きに立たせ、英人は之を後に隨へ、佛人は之と並で行くと云へり、英國の婦人は或る制限の中に於ては誰と語り誰と同行するも勝手なり、其自由なることは殆んど米國婦人に似たり、但し此自由は外國に在る時のみなり、本國に在ては常に上なる力に支配されたり、或る英國の紳士が其米國生れの嫁にお掛けなさいとストーヴの前へ出したる椅子を見て、そんなら之がジヤツク（息子を云ふ）の椅子だ子、そうしてジヤツクが役所から歸て來て爰に腰を掛けると　お前が靴を脫がして上靴を持て來てと云ひ掛れば、嫁は何氣なき體にていゝえおとッさん之はジヤツクさんの椅子で御在ますが、靴は自分で脫で上靴は子供が持て來ますと答ふるにぞ、老紳士は呆然として嫁の顏を見詰むるのみ、心中竊に己が米國生れの妻を娶らざりしを悅ぶなる可し、

●裁縫教授所の取締　從來小樽港の裁縫教授所は小女の監督行屆かざるより、日々通ふ良家の處女にして往々醜聞さへありしが、斯ては歎かはしき次第なりとて、同港の渡邊竹八氏は右取締に就て盡力中とか、」

●貞婦　佐渡國相川町堀口てい孝貞の廉を以て左の賜を賞りしと云

新潟縣佐渡國雜太郡相川町　堀口　てい

性質溫良夫疾病中に三星霜の久しき晝夜病床に侍して看護至らざるなく夫死亡後は自ら家事を負擔し出ては勞役に服して生計を資け入ては姑の奉養と子女の教育とに力を盡す其孝貞多年一日の如し洵に奇特とす仍て爲其賞金三圓下賜候事、（以上二件大日本教育新聞）

通信

淡海子編

●高知縣通信

木公子

◎土佐女學校卒業式　同校第二回卒業證書授與式は去月十五日に擧行せられたり其景況を略記せんに奏樂を以て始め卒業生小栗禎子の和文朗讀、同市川消馬子の英文朗讀、弘松熊代子論文朗讀、山本志賀子の英詩諳誦、今村茂子の和文朗讀等あり次に在校生徒總代として山本美惠子は卒業生に對し同學中の厚誼を謝し併せて其希望を簡短に口述し續て來賓馬場勝彌、多田索兩氏の演說ありたり同校は現今四十名余生徒あり、且目下生徒募集中なり、

◎育兒會員知事に面談す　本月九日高知育兒會々頭松村如蘭、常設委員吉良順吉安田幸正等の諸氏は相携へて縣廳に出頭し、縣知事、警部長に面會し墮胎壓死の弊風矯正上に關し、種々其意見を述進せられしと云ふ、

◎幼年囚徒　現在高知監獄署に入監する十二年以下の幼年囚徒の數は十八名にして其犯罪は凡て竊盜犯に屬するものにして初犯の者少なく、概れ再犯以上の者なりと、

◎女教員の辭職　高知市第一高等小學校に於ける男女兩教員間の軋轢騷動は校長始め男教員殆んど辭職し女教員中重立ちたる者數名は各郡に轉授せしめ一先つ落着を告けんとせしも女教員諸子は相携へて辭職せりと云ふ、これに付きては土陽、高知の兩新聞はいたく意見を異にせり、通信者の見聞する處にては辭職せる諸子に對する生徒の人望は最も强く且つ深し、

◎女生徒送別會を延命軒に開く　本月十一日高等科四年級女生徒の發起にて右辭職せる教員數氏を延命軒に招待し送別會を催し會する女生徒無慮九十名、今右に列せし生徒の話によれは一同唱歌せんとせしも教員も生徒も其に泣沸暫しは聲を出し得ざりしと教員の一人曰く今日の如く悲くして喜はしき事はなしと、以て彼等の厚情を察するを得べし、かくありてこそ教員たる價値あるにあらすや、

◎前田岩吉氏　縣下本山講義所の基督教信徒なる同氏は高知殖民協會の派出員として墨西哥探檢として出發せられたり

●宮城縣通信

◎仙台遊廓移轉　は久しく當市の一問題なりしが、樓主等は中々狡猾の手段に出で、俄に移轉すべきの模樣もあらざりしが、縣廳よりは嚴重に移轉を逹せられ、去月卅一日より七日間の猶豫を與え、本日五日より店張を嚴禁せられたり、勢斯くの如くなれば移轉せざれば營業を禁止せらるれは、同業者數戶は廢業する者もありたりと、因に記す今回の移轉地は同市の蜂屋敷と現今の地に比しては頗る不便の地なりと云ふ、

◎老人の貯蓄會　當市鉄炮町の赤井治三郎氏は、六十有餘の老人なりけるが、今より五年前同年輩の老人と申合せ、毎日二三錢づゝ日掛錢をなして之を郵便局に預けしが、三年の後に至り積りて金三百圓となり、之を取り戾して低利を以て諸方に貸付けしが、今は金六千圓になれりと云ふ、其會員は數名なりと云ふ、

◎修愛女學校の卒業式　同校の第一回卒業式は去月廿七日施行せられたり、卒業生は。吉田りを子、尾形はな子、以上高等科。小川りつ子、木村さら子、志村きよ子、以上は尋常科の五名なりと、

◎松操女學校の卒業式　は去月廿九日午時十時より同校に於て擧げられ、卒業生は遠藤とみゑ以下十八名なりと、

◎身章私塾十五回卒業式　は去月廿九日午后三時より施行せられ、卒業生は吉田みさ外十五名なりと、

◎柳架女學校の卒業式　は去月廿九日執行せられ福田かく外廿八名なりと云ふ、

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

本校九月十三日開校豫備科、普通科、高等科共各級へ入學を許すべし右志願の者は同月十日迄に申込あれ但し規則書入用の方は郵券二錢を要す

神戸市山本通四丁目

神戸英和女學校

女學生募集

本邦ノ事情ニ通曉セル神學博士モール氏今回本校ニ從事シ且ツ内部ノ改良ヲ計リ生徒ノ入學ヲ許ス志望者ハ履歴書相添九月二日迄ニ申込アルヘシ

但シ規則書望ノ者ハ二錢郵券送附アルヘシ

明治廿六年八月

仙臺市東三番町

宮城女學校

○生徒募集

規則書御入用の向へは通知次第遞送すべし

本校今回新に小學科。預科。本科。高等科の各級に入學を許す志願者は九月十日までに來校あるべし

本校は横濱の南方山手高燥の地に位し横濱全市街灣を始めとし總房の諸山及び富岳函嶺を双眸の間に聚め風景の爽快なる空氣の新鮮なる最も衛生に適し最も觀望に妙なり

本校の目的は十全なる普通學。女子に適切なる高等學。善良なる德育。中庸を得たる體育を授け全備せる有用の女子を養成するにあり

本校は毎年本科一年級以上に校費生五名を募集す

本校は基督敎徒にしてその娘妹を敎育せんと欲する志厚きも其資力足らざる者のために特別法を設く

明治廿六年八月

横濱山手百七十八番

フエリス和英女學校

フエリス女學校同窓會

九月十二日午前十時より會費金廿錢

長短に拘らず一たび本校に入學せし者は參同を乞ふ

同窓會發起委員敬白

東京英和女學校寄宿生及通學生募集

一本校は廣く日本女子の爲に基督敎主義に基き高等なる自由敎育を授く

一普通學部は修業年限を四年と爲し本科別科の二科に分つ

一豫備學部は修業年限を二年となす

一職業部は修業年限を三年となす

一敎員は內國人十一名外國人四名

一寄宿舍には內國婦人二名の監督を置く

一校醫は定時來診して衛生上の注意を與ふ

一入學試驗九月十一日午前九時

一始業九月十二日

規則書入用の諸君は郵税二錢を送られたし

明治廿六年八月

東京青山南町

東京英和女學校

清流女學校女生徒募集廣告

本校今回更に女生徒を募集す入學志願者は來九月八日迄に申込み可有之候事

但遠來生徒の爲めに寄宿舍を設く規則書及び本校發刊の雜誌清流等入用の方は貳錢郵券添へ照會あるべし

愛知縣名古屋市東片端町三丁目

名古屋清流女學校

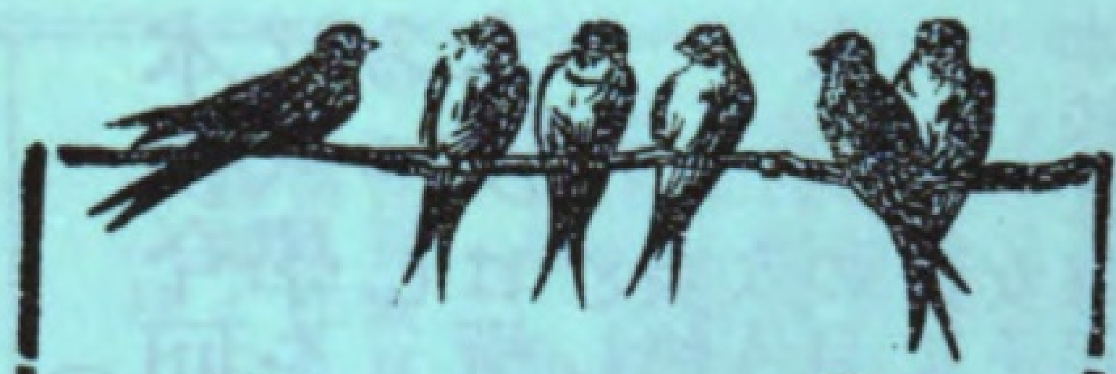
Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

第十號要目

明治廿六年

國弊論　善治
文界時評　流水
忠孝活論　撫象
徳育者としてのシエクスピア
ゴッセンが倫理學と經濟學



評論

里の朝　紫苑
にほはぬ花　花圃
雜感　山月

聲音の調韻◉軍樂◉唱歌◉躰操道◉カライルの慈善◉貝拾ひ◉日本の欽定歌宗◉最初の東脩及月謝◉同志社の會計◉罪と罰とに關する新説◉長壽者の習慣

八月十二日發兌

本誌代價
六冊 前金 三十五錢 府外 三十八錢
十三冊(半年) 同 七十三錢 同 七十八錢
廿六冊(一年) 同 一圓三十錢 同 一圓四十三錢
一冊 金六錢 郵税 金五厘

發行所 女學雜誌社

裏錦

第十號(八月十五日發行)要目

本社裏錦は本月十五日發行の第十號より表紙並に本文諸欄の體裁を改良し口畫には幽妙秀麗なる清女捲簾の圖を掲げ夏期大附錄には優美快絶の史論小說を載せて大方の令孃淑女が消暑代睡の資に供すといふ

基督教に於ける本邦女教の對照(社説)婦女と書物(殘夢)暑中のたしなみ(五子)家庭政事の一斑(錦子)消暑謾言(徳子)床しき天香(小衣子)涙のあと(山田郁子)杵の落葉(服部遺著)れひたちの記(林丘子譯)僞皇子(殘月庵譯)草香幡梭姫(洛浿五子)和泉式部(賀古殘夢)

夏期大附錄

●清少納言　殘月
●カピタンスカヤ、ドーチカ(士官の娘)　林丘子
●旅衣　しら菊

定價一冊六錢市外郵税一冊に付一錢

發行所 東京神田區駿河臺北甲賀町十三番地 尚絅社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文學界

第七號要目

（吊歌）桂川を評して情死に及ぶ　透谷

靜御前　殘花

茶丈記　藤生

彙報

純美文界

白百合を枯して

袈裟女を吊ふ　天知

（悲曲）茶のけぶり　古藤庵

菊女夫を戀る文

定價

東京市内	
一册	六錢
六册	三十三錢
十二册	六十錢
市外郵稅共	
一册	八錢
六册	四十五錢
十二册	八十四錢

發行

東京麴町區下六番町六番地

文學界雜誌社

巖本善治君講述

教育學講義

右は君が、明治女學校、高等科女生に口授せられたる講義中、之れを筆記して、昨年七月より本年四月に至る、白表女學雜誌附錄として、續載せしものにして、先頃より之を一冊子として世に公にせよと請はるゝ者あれば。謂は君の未定稿なれど、今般廉價を以て同好諸君の求めに應ぜむとす、

正價　金八錢

郵稅　金貳錢

福羽美靜君序　鈴木弘恭君著

再版

文法口授

和紙日本綴

定價金拾錢

郵便稅金貳錢

目次

（一）文と云もの、譯（二）章句段節の譯（三）文を作るは容易なる譯（四）多く文を作るを善とする譯（五）文を作る工夫の事（六）草稿の譯幷に書方（七）文を練磨する事（八）文を作るに病癖ある事（九）佳篇を作る法（十）文を培養する法（十一）種々の文例

皇后陛下御覽　三島通良君著

四版

はゝのつとめ

和本上製（上下二册揃）定價金五拾錢郵稅金六錢

醫科大學産科●婦人科●小兒科○華族女學校●長崎●福岡●島根●秋田其他數縣尋常師範學校教科書及參考書

右は第三版賣切の所今般第四版、印刷成りたれは一層直段を引下候間續々御購讀あらんとを

東京麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

貴顔水

大壜十錢 小壜五錢

色を白くし肌膚を緻密にし顔手足の艶を光澤するの一大特効藥にして貴婦人がたの白粉下に用ゆれば白粉悪毒を防ぐの藥力ありされば。ひゞ。あかぎれ。しもやけ。は一夜にて不思議の効を奏す常に之を用ゆる人は汗疹彩刺。そばかす。たゞれ等の患ひなかるべし

本舗 東京四谷大横町角 諸國有名賣藥問屋 **永田義原**

代理店 大阪堀江阿彌陀池東辻 **榊原庄左衛門**

特約店 牛込上宮比町尾澤●築土八幡前尾澤●芝神明前岩本●淺草菊屋橋詰山田●本郷五丁目高島●日本橋區上槙町安川●兩國廣小路大木●銀座一丁目佐々木●深川富岡門前町小池

本校次學期より。高等科、普通科、の各級共入學を許す、九月八日迄に申込を乞ふ、但し規則書を要する向は郵劵二錢寄送あれ

東京市麹町區下六番町六番地 **明治女學校**

一雑誌及び書籍代金二十錢未滿は郵劵代用不苦候、郵劵は五厘切手一割増の事

一雑誌及び書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價

六冊	前金三拾五錢	府外三十八錢
十三冊(半年)	同 七拾三錢	同 七十八錢
廿六冊(一年)	同 一圓三十錢	同 一圓四十三錢
一冊	金六錢	郵税金五厘

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰)	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

○十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上四割引。但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲くるものにて一切無料さす但紙面半頁分の廣告を載する毎に右雑誌十部注文を要し以上半頁毎に十部増さ定む。

明治廿六年四月廿五日内務省許可
明治廿六年八月十八日印刷
明治廿六年八月十九日發行

發行兼編輯者 東京市麹町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 仝牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光
發行所 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社
印刷所 仝牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 秀英舍工場 (電話十九番)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY